

# 人間の安全保障指標の構築 ——目的と手法、今後の展望

JICA 緒方貞子平和開発研究所「人間の安全保障指標」タスクチーム

文責：石塚 史暁

## はじめに

JICA 緒方貞子平和開発研究所 (JICA 緒方研究所) では、「人間の安全保障の指標」(HS 指標) を構築することを目的として、JICA 内の有志および JICA 緒方研究所員から成るタスクチームを組成し、2025 年 2 月より議論を重ねている。本稿では、HS 指標構築の作業の全体像を概観するとともに、同タスクチームで行われている議論の現状、今後の展望を紹介する。

## 1. 背景

今般、HS 指標の構築を試みるに至った背景として、国際場裡における開発に関する議論の潮流、さらには近年の国際環境の変化が挙げられる。より具体的に述べれば、以下の 4 点に集約される。

- (1) 開発指標としての一人当たり GDP の限界が指摘され、国連開発計画 (UNDP) の人間開発指標 (HDI) などの代替指標が提案されているが、決定的なものは無い状況である。
- (2) JICA および JICA 緒方研究所として、国際場裡におけるポスト SDGs の議論への貢献が求められている。
- (3) 複合危機が進む現在の国際環境を鑑みて、人間の安全保障の概念や実践を、国内外でさらに主流化していく必要がある。
- (4) JICA 内でも、国別／課題別の事業戦略文書に人間の安全保障の観点を反映する機運が高まっており、JICA 緒方研究所として、こうした動きに対し知見を提供することが望まれている。

## 2. 基本的な考え方

上記タスクチームの立上げに際しては、JICA 緒方研究所内で事前に議論を重ね、基本的な方向性として以下の 5 点を確認した。

- (1) HS 指標の定義は、「人間の安全保障の観点から各国の状況を客観的に示す既存指標の束」を想定する。
- (2) 単一の統合指数 (index) は作成せず、国際機関や民間調査会社が公表している既存指標 (indicator) の中から選定する。
- (3) 国別ランキングは作成しない。
- (4) 第一段階として候補指標を多めに列挙したうえで、第二段階として最終的な指標を選定する。
- (5) 最終的に選定する指標の数に関して特定の上限は設けられないが、直観的に見やすい程度の数に留める。

上記 (1) および (2) は、既存の類似の取組み (例：UNDP の HDI) のように単一の統合指数を新たに作成することも検討されたが、人間の安全保障が確保されているかどうかの度合いを単一の数値で表すことの難しさや、同数値が独り歩きしてしまうことのリスクなどを総合的に考慮した結果、かかる考え方に至ったものである。

## 3. 指標選定の方針

上記 2. の基本的な考え方に照らせば、HS 指標を構築する作業の主たるプロセスは、既存の指標を収集し、各指標候補について HS 指標とみなすことの妥当性を検討するものになる。このプロセスを始めるにあたり、上記タスクチームでは、HS 指標として選定する際の拠り所となる以下の 5 つの

本レポートで述べられている見解は執筆者個人の見解であり、JICA や JICA 緒方研究所としての見解を示すものではありません。

方針を確認した。

- (1) 人々の生存・暮らし・尊厳・環境が担保されているかの度合い（または脅威への対処の度合い）を可視化する代表的な指標を選定する。
- (2) 選定する指標は国単位とした上で、ジェンダー・年齢などの属性データを積極的に収集するとともに、サブナショナル単位の指標を試行的に構築することも視野に入れる。
- (3) 客観指標に加え、主観的認知に関する指標を積極的に含める。
- (4) 時系列およびクロスセクションでカバレッジの大きいデータを持つ指標を優先して選定し、代替可能な指標が存在しない場合は、第三者により加工された指数（Index）の採用も可とする。
- (5) 保護、エンパワメント、連帯という3つの人間の安全保障の戦略を考慮するとともに、各指標改善の実践に関する説明にも反映する。

上記(1)は、タスクチームが想定するHS指標の核となるコンセプトである。人間の安全保障は、全ての人々が恐怖と欠乏から自由になり、尊厳を持って生きられる権利が保障された社会を作ろうとする理論と実践である。この精神を受け継ぐ形で2024年に合意された国連未来サミット成果文書「未来のための協定」では、その冒頭で、全ての人々のウェルビーイング・安全・尊厳に加え、健康な地球（a healthy planet）の保障を目指すことが謳われている（United Nations, 2024）。したがって、選定される各指標は、人々の生存（恐怖からの自由）、暮らし（欠乏からの自由）、尊厳（侮辱されない自由）に加え、人々の環境（健康な地球に生きる自由）が担保されているかどうかの度合いを可視化するものと位置づけられる。

上記(2)は、選定する指標の単位に関するタスクチーム内の議論の結果を反映したものである。選定する指標は、主にデータの入手可能性の観点から、国単位としている。ただし、人間の安全保障の基本精神に立ち返れば、本来はそもそも一人ひとりの単位に焦点を当てることが望ましいことから、国の内部の格差や多様性の存在を考慮し、ジェンダー・年齢などの属性別データを積極的に収集する予定である。また、国の中の地域やコミュニティといったサブナショナル単位のHS指標を試行的に構築することも視野に入れている。

## 4. 選定作業の現況

現在、上記タスクチームでは、上記3.の方針を踏まえ、既存の指標群からHS指標を具体的に選定する作業を行っている。具体的には、まず候補となる既存指標のリストを作成し、その全体像についてタスクチーム全員による議論を行った。そのうえで指標の分類ごとに担当者を決め、各担当が実際に各指標候補のデータの時系列トレンドや国ごとの分布を確認し、HS指標として選定することの妥当性をさらに詳しく検討しているところである。

HS指標の具体的なイメージを掴んでいただくために、想定される指標候補の例を、分類ごとに表1に示す。分類に関しては、上記3.(1)で述べた人間の安全保障の4要素をそのまま大分類とした上で、各大分類においてそれぞれ3つまたは4つの小分類を置く。この下に複数の指標を配置し、これらをHS指標と位置づけ、データや分析結果を付した形で公表する予定である。これらはまだ検討の初期段階にあり、各分類の名称や範囲、各分類に含まれる指標はあくまで暫定のものであることに留意いただきたい。

上記の議論はまさに現在進行形であるが、現時点で明らかになっている指標選定上の論点を幾つか紹介する。

表1：想定される分類および指標候補の例

大分類	小分類	指標候補の例
生存	災害	災害による死者・行方不明者の割合
	紛争・暴力	紛争関連死者数の割合、意図的殺人行為の割合
	人口動態	平均寿命、合計特殊出生率
	健康	栄養不足蔓延率、感染症疾患死亡率
暮らし	教育	初等教育修了率、学習到達度
	貧困・格差	国際的な貧困ライン未満人口の割合、ジニ係数
	仕事	失業率、インフォーマルセクターにおける雇用者の割合
	インフラ・DX	受電可能人口の割合、インターネット利用率、AI導入への適合指数
尊厳	自尊心・連帯	人生に対する満足度、他者の助けがある人の割合
	公共空間	世界自由度指数、世界ガバナンス指数
	脆弱な人々	子供・女性・高齢者・障がい者・強制避難民の指標群
環境	自然	水ストレスレベル、自然保護区の割合
	環境の質	窒素排出量、プラスチック消費量
	気候変動	一人当たり年間温室効果ガス排出量

出典：筆者作成

第一に、「尊厳」を捉えることの難しさである。「尊厳」の大分類に含まれる指標候補の多くは、国際機関などの統計データがある程度整っている他の大分類と異なり、データの制約上、個人の主観的認知を尋ねた世論調査の結果や、専門家の主観的な判断を含む第三者が加工した指数（index）に頼らざるを得ない面がある。例えば強権的な独裁国家では、民主的な国家に比べ、政府への信頼度に関する回答にバイアスがかかっているであろうことは容易に想像される。

第二に、「生存」の定義の範囲である。一人ひとりの生存を直接的に損なうような外部要因としては、災害や紛争、感染症疾患などがまず考えられる。他方、一人ひとりがあるべき寿命を全うするという観点に立てば、生きる上で最低限必要な力を育むという意味で、教育、とくに基礎教育も「生存」の重要な構成要素の一つとみなすことができる可能性がある。

第三に、各指標候補を単一の分類に置くことの是非である。現在、選定する各指標は便宜上、4つある大分類のいずれか一つに置いている。しかし本来、例えば身体的または精神的な暴力は、一人ひとりの生存に直接かかわる一方、一人ひとりの尊厳にも影響を及ぼすものである。これを大分類「生存」の下に置くことで、それが持つ尊厳のコンテキストを結果として見落としてしまう危険性がある。この点に注意しつつ、指標の選定および分析を進める必要がある。

## 5. 今後の展望

本タスクチームでは、今後、上記の指標選定作業を進めるとともに、選定されたHS指標を使った各種の分析に着手する予定である。その過程では、内外の専門家やステークホルダーとの意見交換を随時行っていく。その後、選定されたHS指標およびその分析結果を、報告書およびウェブ上のデータベースの形で公表する予定である。

この試みが、各国における人間の安全保障の更なる可視化や、それに基づく取組みの進展に貢献するものになることを願っている。

### 参考文献

United Nations. 2024. *Pact for the Future, Global Digital Compact and Declaration on Future generations*. New York: United Nations.